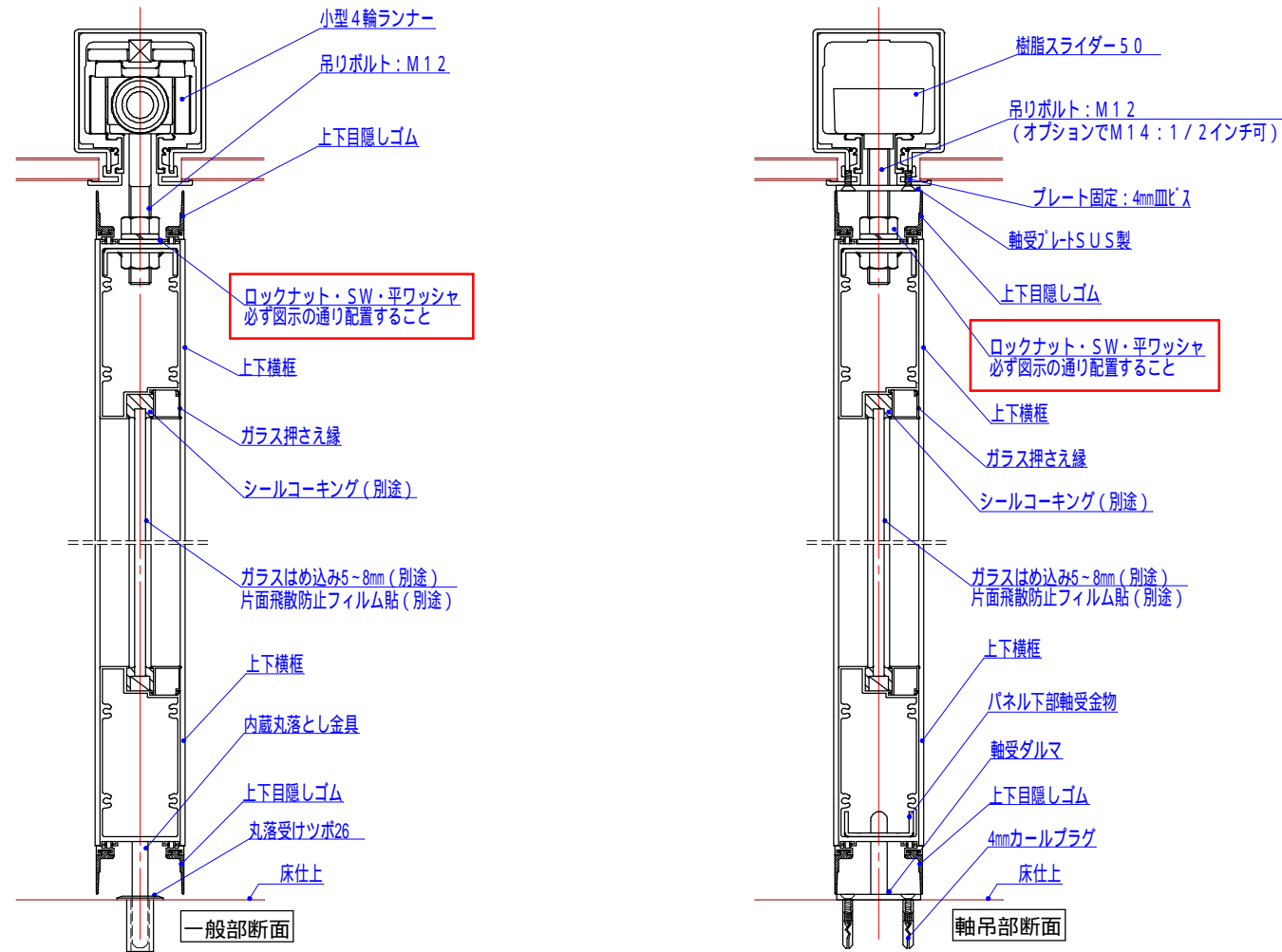


取付手順書

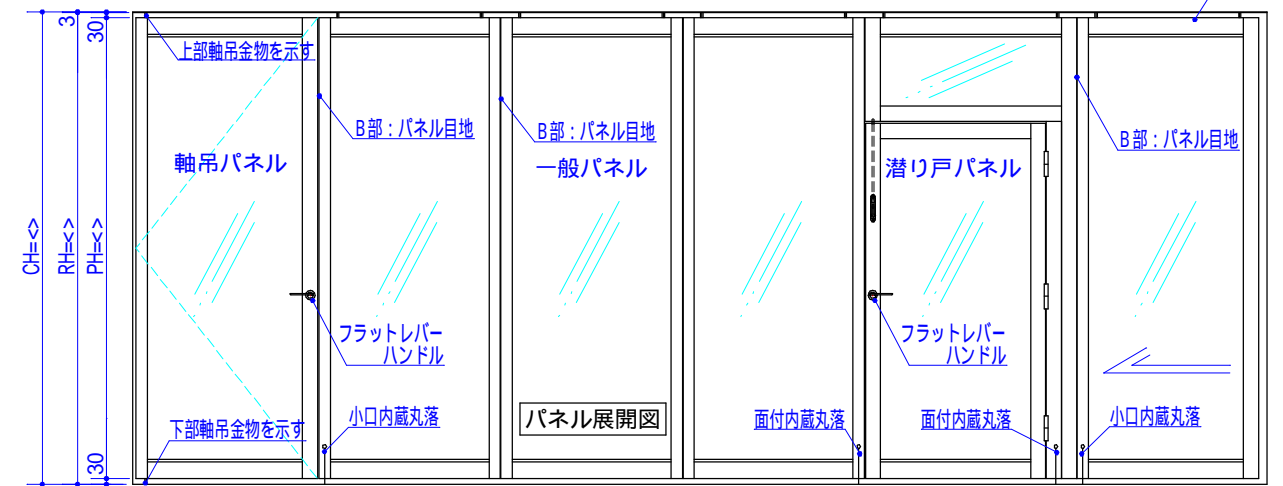
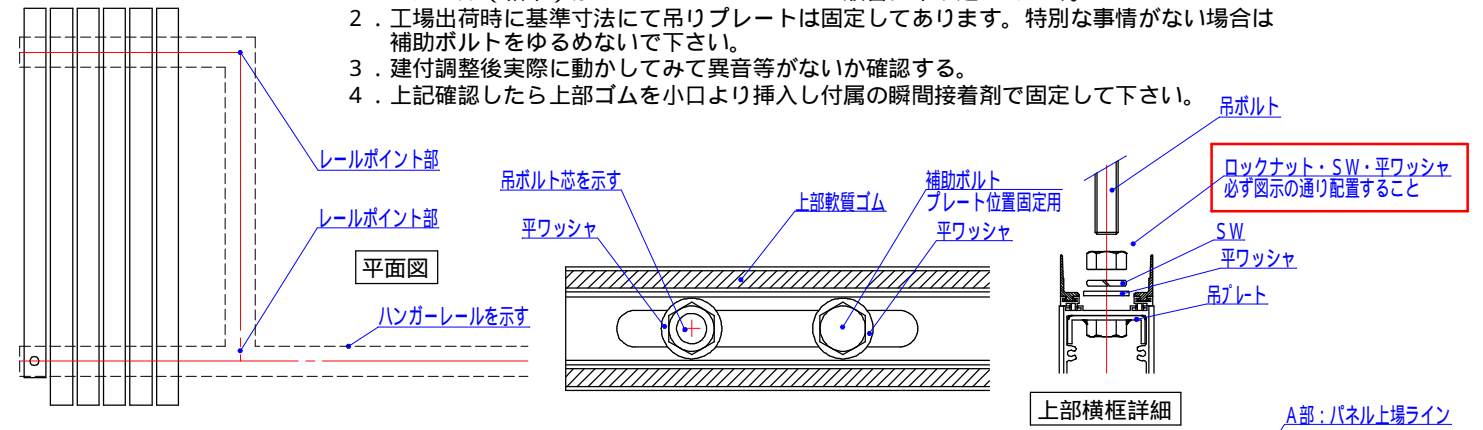
2018.01改訂

スケルトンウォール施工方法		株式会社 砺波建創 埼玉県川口市安行領家1072-3 TEL: 048-297-3111 FAX: 048-297-3114
パネルフレーム取付手順 (軸吊タイプ)		
備考	『ガラス工事別途』の場合は、別紙 ガラスはめこみ注意事項 を併せてご確認ください。	



吊り込みまでのチェックポイント

1. パネル (軸吊) から . . . と順番に吊り込んでいく。
2. 工場出荷時に基準寸法にて吊りプレートは固定してあります。特別な事情がない場合は補助ボルトをゆるめないで下さい。
3. 建付調整後実際に動かしてみても異音等がないか確認する。
4. 上記確認したら上部ゴムを小口より挿入し付属の瞬間接着剤で固定して下さい。



パネル展開後のチェックポイント

パネル展開後は吊ボルトの上下で上下隙間の調整及びA部パネル上場ラインの通りを揃えてください。また、各パネルB部目地部分の隙間を均一になるように吊ボルトの上下で微調整して下さい。調整後吊ボルトをしっかり固定し、上部軟質ゴムを瞬間接着剤にて動かさないように固定して下さい。丸落固定用受けツボの位置出し

1. パネルの位置を出し、所定の位置で床面にハンマードリル等で深さ30mmくらいの穴をあけその中に丸落としのツボを差し込み パネルを固定して下さい。
2. パネルの軸吊の動きをみながら パネルの位置を決め、1同様丸落として固定して下さい。
3. . . . パネルは残りスペースに均等に割り振り、丸落とし固定位置を決定して下さい。

アルミフレームパネルの吊り込み手順

1. レール内にゴミなどの異物がないことを確認し、吊車が未挿入の場合は挿入口より投入して下さい。
2. 図面を参考に順番通りパネルと吊り車と連結して下さい。軸吊パネルは先に軸受プレート及び軸受ダルマを所定の位置に取付してから吊り込みを行ってください。
3. 吊込時、必ず付属の部品をパネル側より平ワッシャ スプリングワッシャ ロックナットの順に挿入して下さい。未挿入の場合、パネルの脱落等の不具合の原因となるおそれがあります。
4. 全パネル吊込後パネルを展開して吊ボルトの上下操作しパネルの建付調整を行ってください。
5. 先頭パネルの丸落受けツボを設置しパネルを固定後、軸吊パネルひとつ前パネルの丸落受けツボを設置する。位置決めは軸吊りパネルのラッチのかかりを確認しながら行う。残りパネルの目地が均等になるように残りの受けツボを設置する。
6. 作業終了後パネルの小口より上ゴムを挿入し付属の瞬間接着剤で固定して下さい。(下ゴムは工場にて固定して出荷します。下ゴムを参考に施工して下さい。)
7. 最後にもう一度パネルを展開して問題が無い再確認して下さい。

パネル吊り位置は工場にて所定の位置に固定してありますが、現場にて微調整が必要の際は左右に10~20mm程度動きます。調整必要の場合は補助ボルトを緩めて吊り位置の調整を行ってください。調整後は必ずボルトを締め直して下さい。

施工終了前確認事項

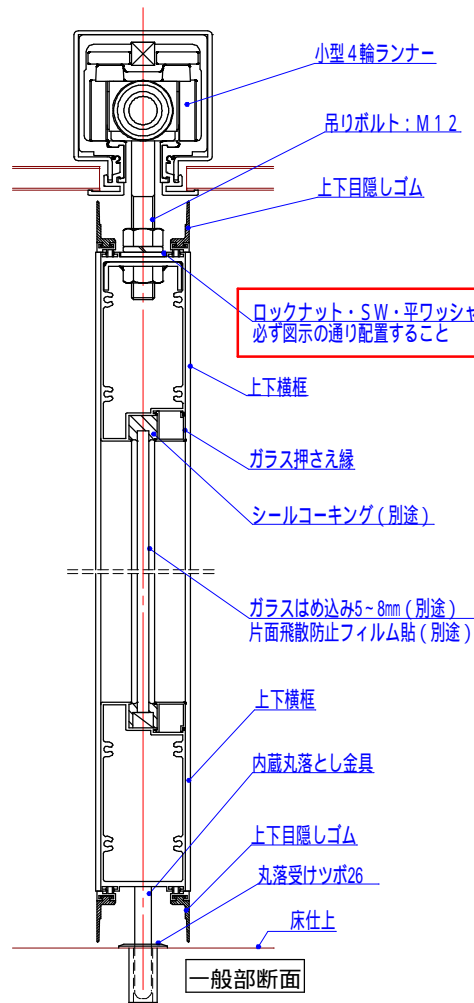
上レールのポイント部分には必ずグリスを入れること。怠るとパネル動作が著しく低下します。軸吊パネル及び潜り戸パネルのある場合は、吊り込み後必ずラッチのかかりを確認してください。ネジ・ボルトナット類がすべてロックしていることを確認して下さい。(特にパネル上部のロックナットは確実に締めて下さい。)
ガラスをはめ込む際は必ずシールコーキングにてガラスを固定して下さい。施工時は必ず全パネルをセットし、軸吊りパネル及び潜り戸パネルなど片吊りのパネルに関しては床面にパッキンなどをしてガラス自重でパネルの対角が狂わないように施工を行ってください。本製品はフレーム材とガラスがきっちりシールコーキングされることによって耐用強度を得られるよう設計してあります。シールコーキングが固まるまで展開したパネルは動かさないで下さい。

現場の状況が変化し、製品が収まらない場合は強引に設置しようとはせず、当社宛にご相談下さい。スケルトンウォールは精密な計算の上で製作されております。独断にて加工等行いますと、製品の故障、重大な事故の原因になるおそれがあります。使用頻度の多い場合は半年~1年を目安に定期メンテナンスを必ず行って下さい。(吊り車のグリスアップ・パネル建付調整・増締め等)

取付手順書

2018.01改訂

スケルトンウォール施工方法		株式会社 砺波建創 埼玉県川口市安行領家1072-3 TEL: 048-297-3111 FAX: 048-297-3114
パネルフレーム取付手順 (サイドシールタイプ)		
備考	『ガラス工事別途』の場合は、別紙 ガラスはめこみ注意事項 を併せてご確認ください。	



セット

サイドシールパネルの操作について

サイドシール操作口に専用レバーを差し込んで時計回りに約110度回転させて壁面のすき間を塞ぎます。

時計回りでセット 半時計回りで解除

簡易サイドシール機構はあくまで壁面のすき間を塞ぐための物で、サイドシール自体にロック機構はありません。

操作レバーは110度程度回転するとストッパーがかかります。ハンドルに無理に力を加えますと怪我や故障の原因となります。操作レバーはサイドシール操作後取り外して大切に保管下さい。レバーをなくされますとパネルの操作が出来なくなりますのでご注意ください。

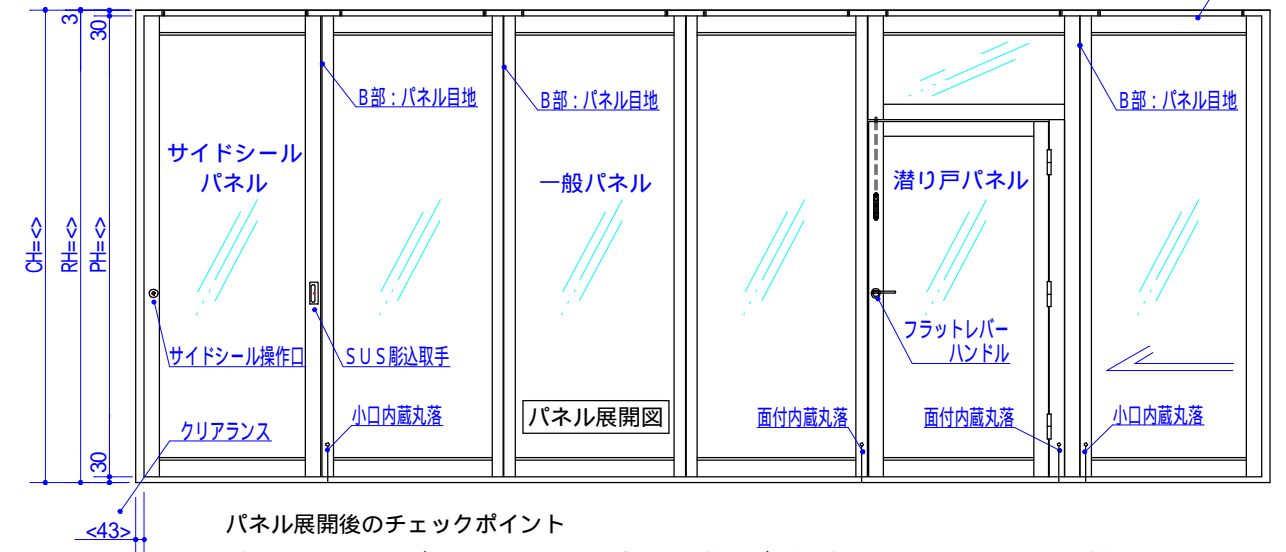
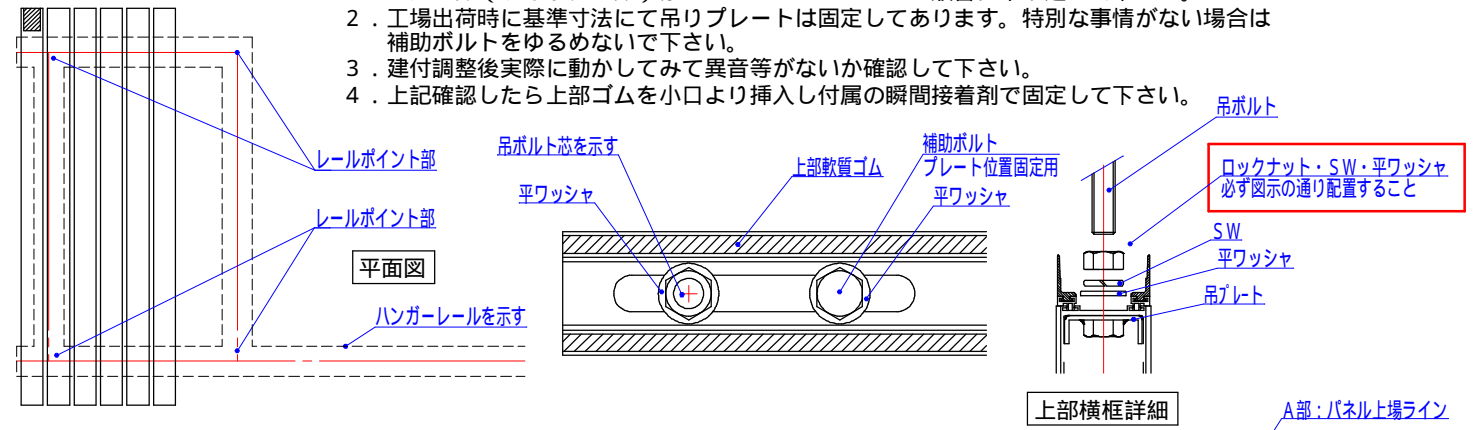
アルミフレームパネルの吊り込み手順

1. レール内にゴミなどの異物がないことを確認し、吊車が未挿入の場合は挿入口より投入して下さい。
2. 吊込時、必ず付属の部品をパネル側より平ワッシャ スプリングワッシャ ロックナットの順に挿入して下さい。未挿入の場合、パネルの脱落等の不具合の原因となるおそれがあります。
3. 全パネル吊込後パネルを展開して吊ボルトの上下操作しパネルの建付調整を行います。
4. 先頭パネルの丸落受けツボを設置しパネルを固定後、サイドシールパネルのひとつ前パネルの丸落受けツボを設置する。戸尻側のクリアランスが図面通りの寸法になるように位置決めをして下さい。(クリアランスが45mmを超えるとサイドシール操作口の切り欠きの穴が露出します。)
5. 残りパネルは目地が均等になるように位置決めし丸落とし受けツボを設置して下さい。
6. 作業終了後パネルの小口より上ゴムを挿入し付属の瞬間接着剤で固定して下さい。(下ゴムは工場にて固定して出荷します。下ゴムを参考に施工して下さい。)
7. 最後にもう一度パネルを展開して問題が無いか再確認して下さい。

パネル吊り位置は工場にて所定の位置に固定してありますが、現場にて微調整が必要の際は左右に10~20mm程度動きます。調整必要の場合は補助ボルトを緩めて吊り位置の調整を行ってください。調整後は必ずボルトを締め直して下さい。

吊り込みまでのチェックポイント

1. パネル(サイドシール)から . . . と順番に吊り込んで下さい。
2. 工場出荷時に基準寸法にて吊りプレートは固定してあります。特別な事情がない場合は補助ボルトをゆるめないで下さい。
3. 建付調整後実際に動かしてみても異音等がないか確認して下さい。
4. 上記確認したら上部ゴムを小口より挿入し付属の瞬間接着剤で固定して下さい。



パネル展開後のチェックポイント

パネル展開後は吊ボルトの上下で上下隙間の調整及びA部パネル上場ラインの通りを揃えて下さい。また、各パネルB部目地部分の隙間を均一になるように吊ボルトの上下で微調整して下さい。調整後吊ボルトをしっかりと固定し、上部軟質ゴムを瞬間接着剤にて動かさないように固定して下さい。丸落固定用受けツボの位置出し

1. パネルの位置を出し、所定の位置で床面にハンマードリル等で深さ30mmくらいの穴をあけその中に丸落としのツボを差し込み パネルを固定して下さい。
2. パネル、サイドシールのクリアランスをみながら パネルの位置を決め、
1. 同様丸落としにて固定して下さい。
3. . . . パネルは残りスペースに均等に割り振り、丸落とし固定位置を決定して下さい。

施工終了前確認事項

上レールのポイント部分には必ずグリスを入れること。怠るとパネル動作が著しく低下します。サイドシールパネルは必ずクリアランスの寸法を厳守して下さい。ネジ・ボルトナット類がすべてロックしていることを確認して下さい。(特にパネル上部のロックナットは確実に締めて下さい。)

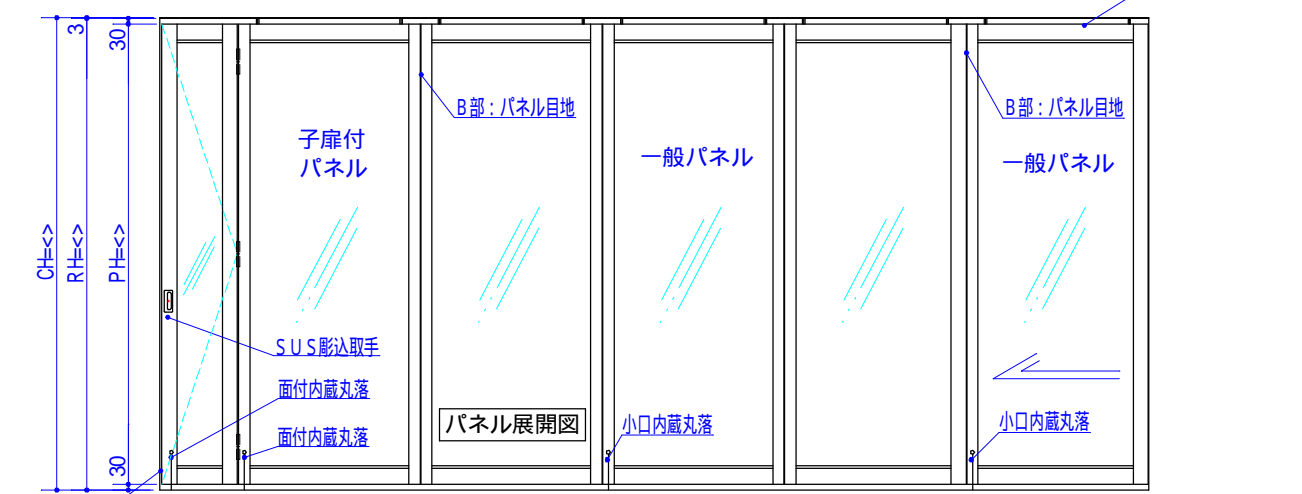
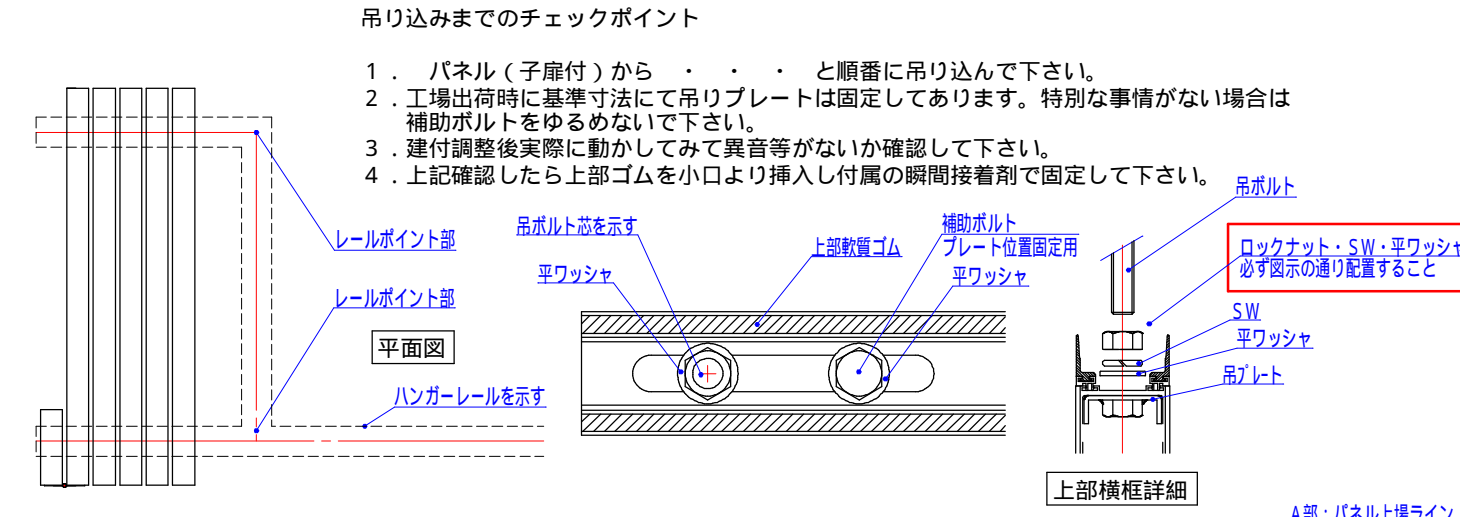
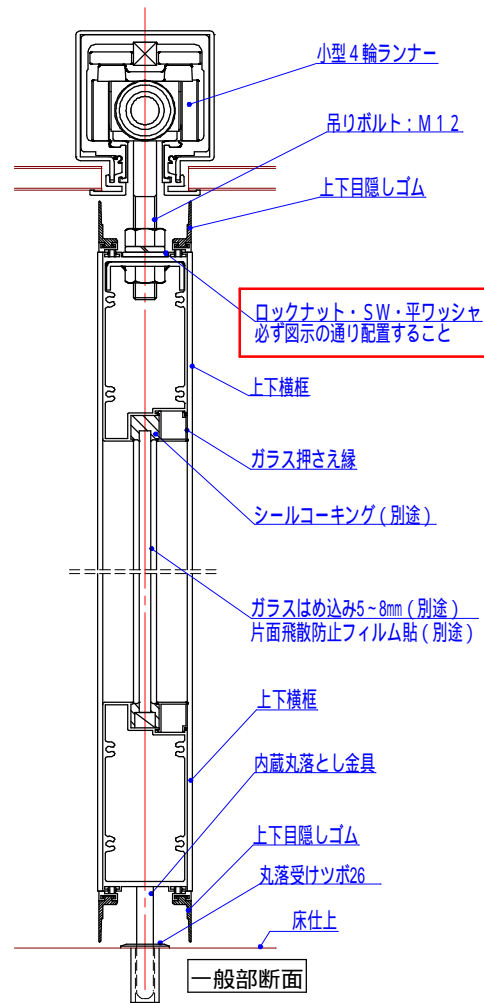
ガラスをはめ込む際は必ずシールコーキングにてガラスを固定して下さい。施工時は必ず全パネルをセットし、軸吊りパネル及び潜り戸パネルなど片吊りのパネルに関しては床面にパッキンなどをしてガラス自重でパネルの対角が狂わないように施工を行って下さい。本製品はフレーム材とガラスがきっちりシールコーキングされることによって耐用強度を得られるよう設計してあります。シールコーキングが固まるまで展開したパネルは動かさないで下さい。

現場の状況が変化し、製品が収まらない場合は強引に設置しようとはせず、当社宛にご相談下さい。スケルトンウォールは精密な計算の上で製作されております。独断にて加工等行いますと、製品の故障、重大な事故の原因になるおそれがあります。使用頻度の多い場合は半年~1年を目安に定期メンテナンスを必ず行って下さい。(吊り車のグリスアップ・パネル建付調整・増締め等)

取付手順書

2018.01改訂

スケルトンウォール施工方法		株式会社 砺波建創 埼玉県川口市安行領家1072-3 TEL: 048-297-3111 FAX: 048-297-3114
パネルフレーム取付手順 (子扉付パネルタイプ)		
備考	『ガラス工事別途』の場合は、別紙 ガラスはめこみ注意事項 を併せてご確認ください。	



壁面方立とゴム先が触れないようにする

- パネル展開後のチェックポイント
- パネル展開後は吊ボルトの上下で上下隙間の調整及びA部パネル上場ラインの通りを揃えて下さい。また、各パネルB部目地部分の隙間を均一になるように吊ボルトの上下で微調整して下さい。調整後吊ボルトをしっかり固定し、上部軟質ゴムを瞬間接着剤にて動かないように固定して下さい。丸落固定用受けツボの位置出し
1. パネルの位置を出し、所定の位置で床面にハンマードリル等で深さ30mmくらいの穴をあけその中に丸落としのツボを差し込み パネルを固定して下さい。
 2. パネル、 パネルの動きをみながら パネルの位置を決め、「1」同様丸落としにて固定して下さい。
 3. パネルは残りスペースに均等に割り振り、丸落とし固定位置を決定して下さい。

アルミフレームパネルの吊り込み手順

1. レール内にゴミなどの異物がないことを確認し、吊車が未挿入の場合は挿入口より投入して下さい。
2. 吊込時、必ず付属の部品をパネル側より平ワッシャ スプリングワッシャ ロックナットの順に挿入して下さい。未挿入の場合、パネルの脱落等の不具合の原因となるおそれがあります。
3. **全パネル吊込後パネルを展開して吊ボルトの上下操作しパネルの建付調整を行います。**
4. 先頭パネルの丸落受けツボを設置しパネルを固定後、子扉付パネルの子扉の動きを見ながら親パネルの丸落受けツボを設置する。子扉のゴムが壁面方立に接触しないように位置決めをして下さい。(ゴムが壁面方立に接触していると経年でゴムが剥がれる原因となります。)
5. 残りパネルは目地が均等になるように位置決めし丸落とし受けツボを設置して下さい。
6. 作業終了後パネルの小口より上ゴムを挿入し付属の瞬間接着剤で固定して下さい。(下ゴムは工場にて固定して出荷します。下ゴムを参考に施工して下さい。)
7. 最後にもう一度パネルを展開して問題が無いが再確認して下さい。

パネル吊り位置は工場にて所定の位置に固定してありますが、現場にて微調整が必要の際は左右に10~20mm程度動きます。調整必要の場合は補助ボルトを緩めて吊り位置の調整を行ってください。調整後は必ずボルトを締め直して下さい。

施工終了前確認事項

上レールのポイント部分には必ずグリスを入れること。怠るとパネル動作が著しく低下します。サイドシールパネルがある場合は必ずクリアランス寸法の厳守して下さい。ネジ・ボルトナット類がすべてロックしていることを確認して下さい。(特にパネル上部のロックナットは確実に締めて下さい。)

ガラスをはめ込む際は必ずシールコーキングにてガラスを固定して下さい。施工時は必ず全パネルをセットし、軸吊りパネル及び潜り戸パネルなど片吊りのパネルに関しては床面にパッキンなどをしてガラス自重でパネルの対角が狂わないように施工を行って下さい。本製品はフレーム材とガラスがきっちりシールコーキングされることによって耐用強度を得られるよう設計してあります。シールコーキングが固まるまで展開したパネルは動かさないで下さい。

現場の状況が変化し、製品が収まらない場合は強引に設置しようとはせず、当社宛にご相談下さい。スケルトンウォールは精密な計算の上で製作されております。独断にて加工等行いますと、製品の故障、重大な事故の原因になるおそれがあります。使用頻度の多い場合は半年~1年を目安に定期メンテナンスを必ず行って下さい。(吊り車のグリスアップ・パネル建付調整・増締め等)

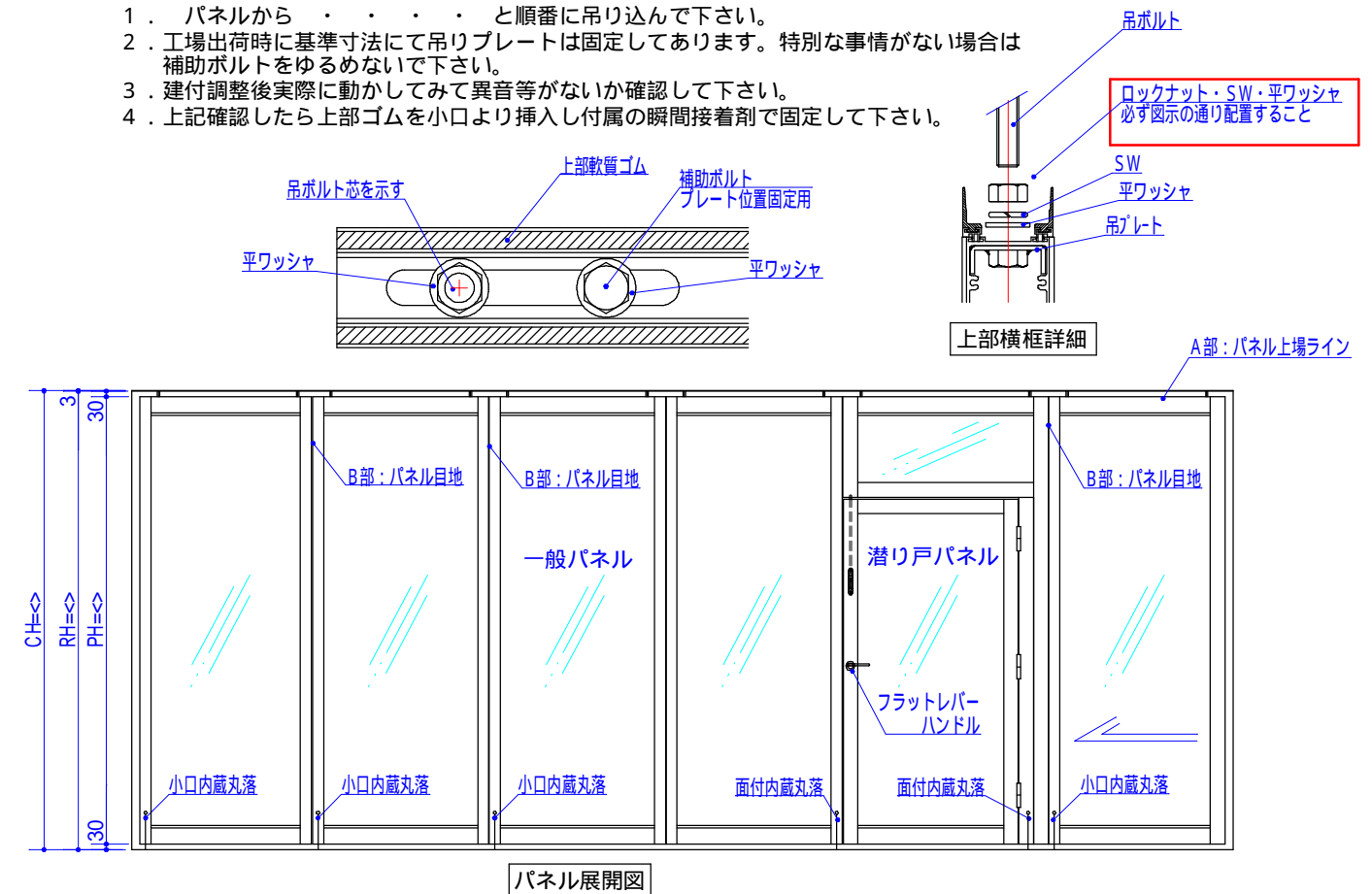
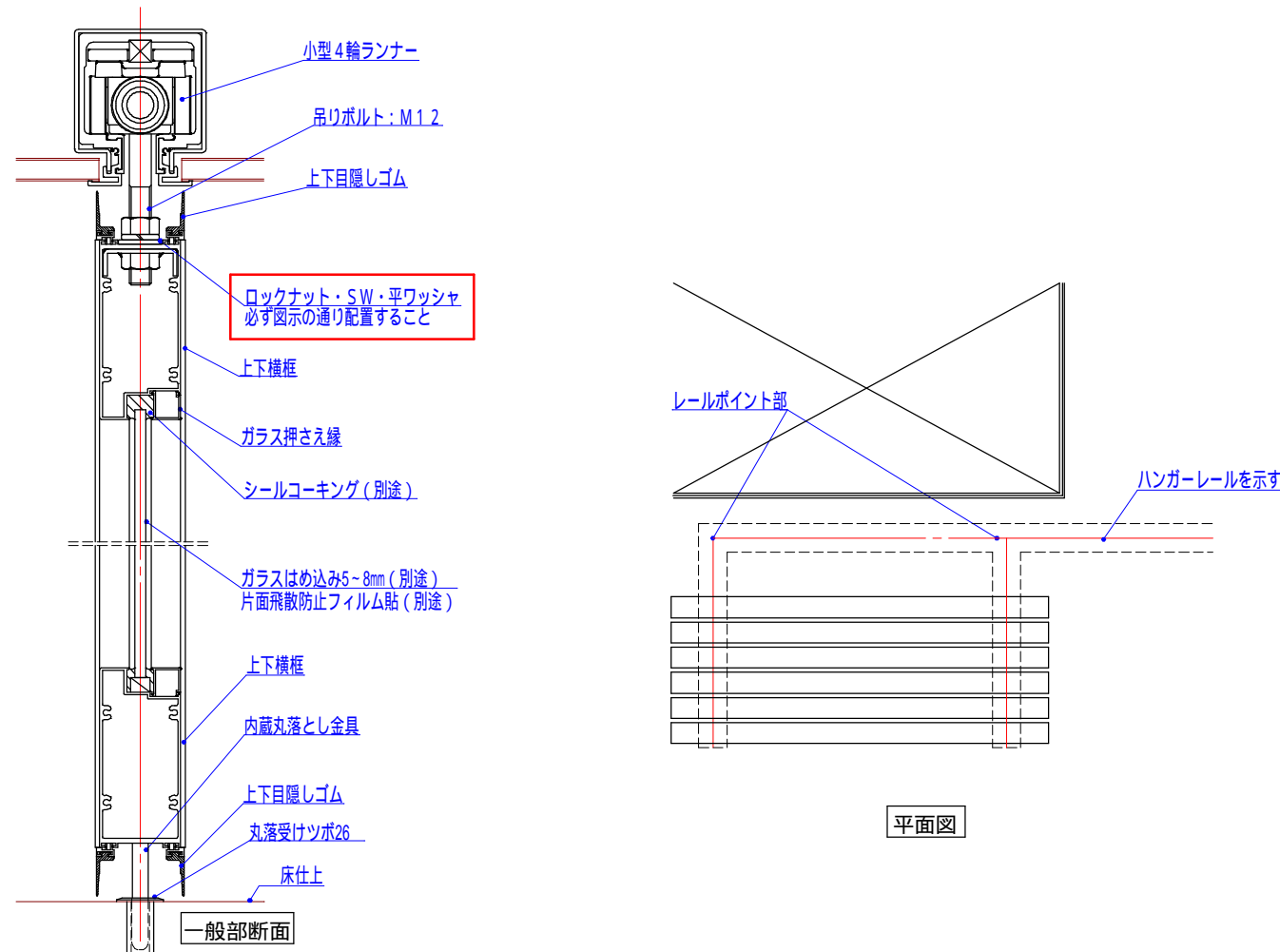
取付手順書

2018.03改訂

スケルトンウォール施工方法		株式会社 砺波建創 埼玉県川口市安行領家1072-3 TEL: 048-297-3111 FAX: 048-297-3114
パネルフレーム取付手順 (丸落とし固定、他)		
備考	『ガラス工事別途』の場合は、別紙 ガラスはめこみ注意事項 を併せてご確認ください。	

吊り込みまでのチェックポイント

1. パネルから と順番に吊り込んで下さい。
2. 工場出荷時に基準寸法にて吊りプレートは固定してあります。特別な事情がない場合は補助ボルトをゆるめないで下さい。
3. 建付調整後実際に動かしてみても異音等がないか確認して下さい。
4. 上記確認したら上部ゴムを小口より挿入し付属の瞬間接着剤で固定して下さい。



パネル展開後のチェックポイント

パネル展開後は吊りボルトの上下で上下隙間の調整及びA部パネル上場ラインの通りを揃えて下さい。また、各パネルB部目地部分の隙間を均一になるように吊りボルトの上下で微調整して下さい。調整後吊りボルトをしっかりと固定し、上部軟質ゴムを瞬間接着剤にて動かさないように固定して下さい。丸落固定用受けツボの位置出し

1. パネルの位置を出し、所定の位置で床面にハンマードリル等で深さ30mmくらいの穴をあけその中に丸落としのツボを差し込み パネルを固定して下さい。
2. パネルの位置を決め、1. 同様丸落としとして固定して下さい。
3. . . . パネルは残りスペースに均等に割り振り、丸落とし固定位置を決定して下さい。

アルミフレームパネルの吊り込み手順

1. レール内にゴミなどの異物がないことを確認し、吊車が未挿入の場合は挿入口より投入して下さい。
2. 吊込時、必ず付属の部品をパネル側より平ワッシャ スプリングワッシャ ロックナットの順に挿入して下さい。未挿入の場合、パネルの脱落等の不具合の原因となるおそれがあります。
3. **全パネル吊込後パネルを展開して吊りボルトの上下操作しパネルの建付調整を行います。**
4. 先頭パネルの丸落受けツボを設置しパネルを固定後、最後パネルが図面通りになるように位置決めをして下さい。
5. **残りパネルは目地が均等になるように位置決めし丸落とし受けツボを設置して下さい。**
6. 作業終了後パネルの小口より上ゴムを挿入し付属の瞬間接着剤で固定して下さい。(下ゴムは工場にて固定して出荷します。下ゴムを参考に施工して下さい。)
7. 最後にもう一度パネルを展開して問題が無いかが再確認して下さい。

パネル吊り位置は工場にて所定の位置に固定してありますが、現場にて微調整が必要の際は左右に10~20mm程度動きます。調整必要の場合は補助ボルトを緩めて吊り位置の調整を行ってください。調整後は必ずボルトを締め直して下さい。

施工終了前確認事項

上レールのポイント部分には必ずグリスを入れること。怠るとパネル動作が著しく低下します。ネジ・ボルトナット類がすべてロックしていることを確認して下さい。(特にパネル上部のロックナットは確実に締めて下さい。)
 ガラスをはめ込む際は必ずシールコーキングにてガラスを固定して下さい。施工時は必ず全パネルをセットし、軸吊りパネル及び潜り戸パネルなど片吊りのパネルに関しては床面にパッキンなどをしてガラス自重でパネルの対角が狂わないように施工を行って下さい。本製品はフレーム材とガラスがきっちりシールコーキングされることによって耐用強度を得られるよう設計してあります。シールコーキングが固まるまで展開したパネルは動かさないで下さい。

現場の状況が変化し、製品が収まらない場合は強引に設置しようとはせず、当社宛にご相談下さい。スケルトンウォールは精密な計算の上で製作されております。独断にて加工等行いますと、製品の故障、重大な事故の原因になるおそれがあります。使用頻度の多い場合は半年~1年を目安に定期メンテナンスを必ず行って下さい。(吊り車のグリスアップ・パネル建付調整・増締め等)